

小・中合同 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者

角間川小学校	富樫耕悦	長山尊磨
藤木小学校	高橋夏美	桐原 保
	小田島崇	
大曲南中学校	吉沢 理	後藤高仁
	後藤 淳	鈴木康子
	齋藤 明	阿部利征
	今川千春	佐藤美紀
	荒川 遼	佐藤富喜子

1 題材名 「未来」につなげよう ふるさとのよさ
 ～それぞれの「なんとかしなければ!」をもとに、自分たちにできることを考える～

2 題材の目標

- (1) 自分たちが住んでいる地域に関する学習や地域貢献活動を踏まえ、南地区の「なんとかしなければ」に着目し、解決すべき問題を設定することができる。 【課題を設定する力】
- (2) 異学年の集団で様々な意見や考えを出し合い、協働して解決策を探ることができる。 【コミュニケーションを行う力】
- (3) 生活体験や既習事項をもとに、問題の分解、原因の追究の段階を踏んで、解決策の考察を広く深く行うことができる。 【多面的・総合的に考える力】
- (4) 持続可能な社会の実現に向けて、「なんとかしなければならぬ」と感じた問題の解決のために、一人一人ができることを見付け、実践していこうとする意欲を高める。 【生活に活用する力】

3 児童生徒と題材

(1) 児童生徒について

学校	児童生徒数	総合的な学習の時間の主な内容	大仙教育メソッド 【特色ある連携に係る取組】
角間川小学校	5年生 7名 6年生 11名 計 18名	・田植えや稲刈りの農業体験を通して、水田と環境の関わりを学ぶ ・地域内の河川等の水質調査活動 ・職場体験学習	Ⅲ：生かす力（協働の実践力） 小中合同クリーンアップ、地域伝統文化継承活動、エコ活動推進他
藤木小学校	5年生 12名 6年生 10名 計 22名	・田植えから精米までを体験し、地域の主産業について学ぶ ・丸子川上流や、生活に密着している水路の水質調査を通してふるさとの環境を調べる	Ⅱ：学ぶ力（主体的・対話的な学び） ESDの視点に立った問題解決的学習、食育・エネルギー等に関する体験活動他
大曲南中学校	1年生 24名 2年生 22名 3年生 30名 計 76名	・有機野菜栽培や地域素材を使った調理を通しての食育 ・県内の再生可能エネルギーの実情を学ぶエネルギー教育 ・ワークスクーリング ・国教養大学との相互交流による国際教育	Ⅰ：基礎となる力（市民性） 小・中合同あいさつ運動、交通安全運動、地区民運動会への参加と運営協力、小・中連携によるキャリア教育の推進等

両小学校の5・6年生は、それぞれのテーマを基に体験活動等を行って地域（学区）についての学習を進めてきた。中学生はESDの視点に立ったテーマで地域を見直し、より深く地域について学習してきた。また、小・中学校とも地域貢献活動を通して積極的に地域に関わってきた。

さらに、これまで本地区では、積極的に「環境学習」に取り組み、調査研究を進め、小・中での合同学習も実践してきた。そのため、児童生徒は地域や環境、自分たちの未来に対する意識は高く、地域のクリーンアップ行事や伝統行事にも全員が参加している。そして、中学生が活動のリーダーとなって、地域の一員としての役割を果たしている。

児童生徒は今までの学習や活動を通して、地域の文化や伝統を学び、そこに暮らす人の温かさや優しさに触れることで、自分たちの住む地域のよさを理解し、ふるさとに生きる喜びを味わっており、地域への愛着が強い。しかし、地域の様々な問題に対して「なんとかしてほしい」という願いはあるものの、「なんとかしなければ」という自発的な思いまでは至っていない。

総合的な学習の時間では、環境をメインテーマとした協働的な学習を継続している。地域の方々の協力の下に行われる地域行事や体験学習を通して、地域への感謝の気持ちや愛着、ふるさとを大切にしたい気持ちは強く、持続可能な社会の構築のためには「思っているだけでなく」「行動することが大切」という意識も育ってきている。

(2) 題材について

秋田県は少子高齢化率が全国一高いと言われており、本地区の児童生徒の減少を見ても、この先の回復は厳しい状況にある。児童生徒も、地域の方との農業体験や職業体験を通して、自分たちのふるさととそこに住む人のよさを学びつつ、地域の現状やこの先予想される問題についても考えを巡らせている。そこで、地域の問題を具体的に拾い上げ、問題分析と原因追究を進め、解決策を探る学習は、ふるさとの未来を創造する上で大切な学びとなる。少子化、高齢化、産業の活性化、働く場の創出など、問題は多岐にわたり各自自治体でもその解決策をなかなか見いだせない現状ではあるが、持続可能な社会の構築のためには避けては通れないことでもある。その中で、この地区の将来を支える小・中学生がその解決策や代替案について、学年を超えて意見交流することは、未来の担い手集団をつくる礎となる。それぞれの立場や生活経験、既習の学習内容等から意見を述べ合うことは、地域を次の世代へと受け継いでいく意識と実践意欲を高めるためにふさわしい題材である。

(3) 指導について

本単元では、思考ツールとしてのプログラムシートを活用し児童生徒一人一人が考えた地域の「目標」と「問題」を集約し、「南地区版“SDGs”～南地区を変える12個の目標～」を設定する。そして小中合同の小グループ（異学年集団）で、集約した12個の目標の重要度についてピラミッドシートを用いて検討し、グループ内で最上位となった目標について、実現する上での課題、その原因、解決策を話し合わせる。小学生と中学生が合同で「多角的に」「深く」地域の活性化について考え、話合うことは、コミュニケーションを行う力を高めたり、多面的・総合的に考えたりする上で非常に効果的であると考えられる。グループ協議では、中学生がリーダーとなって、様々な意見やアイデアを出し合えるようにさせたい。また、解決策が行き詰まった場合には同じ目標を取り上げた他のグループと交流させるとともに、ワークショップの発表で考えを発信し意見を交わすことで、さらに考えが深まるようにしたい。

振り返りでは、話し合いの成果を踏まえ、児童生徒が地域活性化のために今自分ができることについて意見交流させ、行動への意欲を高めさせたい。

4 評価規準

(1) 課題を設定する力

《小学生》

自分の生活経験や、総合的な学習の時間で学んだことをもとに、地域が抱える問題を見付けることができる。 【課題：小】

《中学生》

地域の現状（少子化 高齢化 産業振興等）を把握し、自分が追究すべき課題を設定することができる。 【課題：中】

(2) コミュニケーションを行う力

《小学生》

自由な発想で意見を発表し、他の人の考えも受け止めることができる。 【コミュ：小】

《中学生》

自分と異なる考えや、小学生の考えも肯定的に受け止め、自分の考えを深めることに生かすことができる。 【コミュ：中】

(3) 多面的・総合的に考える力

《小学生》

プログラムシートを利用し、段階を踏んで問題の解決策を考えることができる。 【多・総：小】

《中学生》

目標を達成するために、問題の悪影響から問題を分析し、解決策を見いだすことができる。

【多・総：中】

(4) 生活に活用する力

《小学生》

地域の未来を考え、自分ができることに取り組んでいこうとしている。

【活用：小】

《中学生》

地域を支える次の世代の一人として、地域と自分のあり方を考え、自分がすべき役割を果たそうとしている。 【活用：中】

5 題材の指導計画と評価の計画

時	形態等	主な学習活動	評価規準	評価方法
1	各学級 個別	○オリエンテーションで、学習の流れを把握する。 ○これまでの総合的な学習や地域貢献活動を踏まえ地域への願いや実現したいこと（目標）をいくつか考え、「目標」→「反転問題」→「影響」を考える活動を繰り返し、自分が最も重要だと思う目標を設定する。	課題：中 課題：小	活動観察 プログラムシート
2	合同 異学年 小グループ	○前時で各自が考えた目標を集計した「南地区版SDGs」を確認し、学習の流れを把握する。 ○各グループごとに重要度を話し合い、「南地区版SDGs」カードを拡大ランキングシートに貼っていく。 ○ランキングシートの最上位になったものを、グループの「目標」とし、反転問題と影響を話し合い、拡大プログラムシートに書き出す。 ○次時までの取材内容について確認する。	コミュ：小 コミュ：中 多・総：小 多・総：中	活動観察 学習シート
3 本時	合同 異学年 小グループ	○グループで設定した目標について、取材内容をもとに、問題の分解、原因の追究、解決策の考察をする。 ○同じ目標を設定したグループ同士で、解決策を交流する。 ○ワークショップで発表し、意見交流をする。 ○ゲストティーチャーによる講評を聞き、学びを振り返る。	コミュ：小 コミュ：中 多・総：小 多・総：中	活動観察 プログラムシート 活動観察
4	個別 各学級	○合同学習での話し合いが、自分の設定した目標の実現にどのように役立つか振り返る。 ○それぞれが実践しようとする行動について意見交換する。	活用：小 活用：中	活動観察 学習シート

6 本時の学習 (3/4)

(1) ねらい

- ・年齢の違いによる異なる意見や考えを受け止め、協働して解決策を探ることができる。

【コミュニケーションを行う力】

- ・南地区全体に関わる解決策を、各学年の生活体験や既習事項をもとに広く、深く考えることができる。

【多面的・総合的に考える力】

(2) 学習過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1 グループで選んだ目標と反転問題を確認する。	一斉	・各グループごとの目標を確認し、グループでの話合いの進め方を確認する。	
それぞれのグループで設定した目標を解決するには、どんな方法が考えられるだろうか。				
展開 35分	2 取材メモをもとに問題を分解、原因の追究、解決策を考える。	小グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生を学習リーダーとして、「問題の分解」→「解決策」という段階を踏んだ話合いを進めさせる。 ・15グループに対して、指導者15名が、担当グループを分担して支援にあたる。 ・グループリーダーには、「実現が難しいような意見」や「夢物語に近い意見」についても、切り捨てず受け止めながら、話合いを進めるようにさせる。 ・自分たちのグループでは解決できなかった内容について、他グループからの助言を求めたり、同じ課題について異なる解決策を見つけたグループと意見交流したりして、考えを深めさせる。 ・グループ支援教員は、他のグループの話合いの様子を観察し、どのグループとのマッチングが効果的かアドバイスを与える。 	<p>自分と異なる考えや、小学生の考えも肯定的に受け止め、自分の考えを深めることに生かすことができる。</p> <p>【コミュ：中】 自由な発想で意見を発表し、他の人の考えも受け止めることができる。</p> <p>【コミュ：小】 (活動観察) (プログラムシート) 目標を達成するために、問題の悪影響から問題分析をし、解決策を見いだすことができる。</p>
終末 20分	3 ワークショップでグループ毎に、他のグループにプレゼンテーションをし、意見をもらい、考えを深める。	小グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにそれぞれが考えた解決策を中心に、プレゼンテーションを行わせる。 ・プレゼンテーションは中学生だけに行わせず、ポイントとなった意見を出した小学生を生かすなど、多くの児童生徒が関わるように配慮する。 ・他グループのプレゼンテーションについて、自分たちの話合いの内容と比較 ・検討しながら、意見を述べるようにさせる。 	<p>【多・総：中】 プログラムシートを利用し、段階を踏んで問題の解決策を考えることができる。</p> <p>【多・総：小】 (活動観察)</p>
	4 ゲストティーチャーによる講評を聞き、学びを振り返る。	一斉	・児童生徒の解決策の着眼点、解決方法の工夫等についてと、次世代を担う者としての生き方についての内容で講評してもらう。	